

# 第三章活用事例

小学校三・四年生版「心しなやかに」「いのちをかがやかせよう」

p.110  
s  
p.111

## 中心資料

小学校道徳 読み物資料集  
平成二十三年三月 文部科学省

「ぼくの妹に」

【主題名】 かけがえのないいのち

第三学年及び第四学年 3-1(1)

「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。」

【ねらい】 自分の命が周囲の人を守られていることや自分も他の命を守っていることに気付く、全ての命あるものを大切にしようとする心情を育む。

《ねらいとする道徳的価値について》三・四年生の時期の児童は、生命や死といったものを理解することができるようになります。自分が生まれ、今、ここで生きていくことのすばらしさを実感させることで、生命の尊さを理解させ、その尊さが他の全ての生命に共通することに気付かせることが必要です。自分の生命と同様に、全ての生命あるものを大切にしていこうとする気持ちを育むことが大切です。

## 導入



「命の大切さを感じたことがありますか。」

○自分の経験の中で命の大切さを実感した場面を振り返らせ、ねらいとする道徳的価値に意識を向けさせましょう。

○教師が「ぼくの妹に」を読み聞かせましょう。



「生まれて五日目に、初めて妹と会ったとき、ぼくはどのような気持ちだったでしょうか。」

○保育器の中の妹の姿や、涙をためながら話す母の様子に着目させ、病気の妹に何でもしてあげようと思っている「ぼく」の心情を捉えさせましょう。



「妹に布団をかけ忘れたことを注意されたとき、ぼくは、どのような気持ちだったでしょうか。」

○「ぼくは『お兄ちゃんだから』と言われるのがいやになってしまいました。」という部分に着目させ、自分より妹のほうが大切にされているように感じて、「ぼく」がなぜやりな気持ちになっていることを捉えさせましょう。



## 中心発問

「病院の先生の話聞いて、ぼくはどのようなことを考えたでしょうか。」

○「むねがじいんとあつくなりました。」という部分や、「先生、ごめんなさい。」という「ぼく」の言葉に着目させ、「ぼく」が命とはかけがえないものであるということを強く実感していることを捉えさせましょう。

《評価》 全ての生命がかけがえのないものであり、だからこそ大切にしていかなければならないことに気付くことができたか。



「命を大切にすると、ぼくはどのようなことができるでしょうか。」

○「心しなやかに」 p.110 「いのちをかがやかせよう」を活用し、いのちをかがやかせたいと思うことを書かせ、精一杯生きることの大切さを、同じく精一杯生きる他の命の尊さに気付かせましょう。

## 終末

○教師自身が、命の尊さを実感した体験を、子供たちに語りましょう。  
○「心しなやかに」 p.20 s p.21 「生きていくって…」をみんなで読み、生きていることのすばらしさを確かめて、授業のまとめにしましょう。

## 板書例

### ぼくの妹に

生まれて五日目に、初めて妹と会ったとき、ぼくはどのような気持ちだったでしょうか。

生まれた妹を見守る「ぼく」の挿絵

- どうして保育器の中にいるんだろう。どうして目を開けないんだろう。心配だ。
- 病気の妹が元気になるように、自分にできることは何でもしてあげよう。
- 自分は兄なのだから、一生けん命に妹の世話をしよう。

妹にふとんをかけわすれたことを注意されたとき、ぼくはどのような気持ちだったでしょうか。

- 別にわざとかけなかったわけではないのだから、そんなにおこらなくてもいいのに。
- お母さんは、自分のことより妹のことが大切なんだ。
- 「お兄ちゃん」なんて、がまんしたりしかられたりするばかりでいやだ。

びょういんの先生の話聞いて、ぼくはどのようなことを考えたでしょうか。

- 自分の不注意で、妹が死んでしまっていたかもしれない。
- 先生の弟のように、死んでしまったら、もう二度と妹に会うことはできないんだ。
- 自分は妹に、なんてひどいことをしてしまったのだろう。
- 妹の命と同じように、お母さんは、自分のいのちも大切に思ってくれているんだ。

いのちを大切にすると、どのようなことができるでしょうか。

- あたえられたいのちを大切に使うために、毎日を一生けん命、せいっぱいがんばってすごすこと。
- 自分のいのちが大切なように、他の人や動物や植物のいのちも大切なものだから、それをうばったりきずけたりしないこと。
- おたがいに相手のいのちを大切に思いながらすごすこと。

《評価》 自分の命が周囲の人を守られていることや自分も他の命を守っていることに気付く、全ての命あるものを大切にしようとする心情を育むことができたか。